



New! まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。
開館日時など詳細は、まちライブラリーHP内の「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。
(No. は登録番号です)

NO. 891 (神奈川県 厚木市)

まちライブラリーinアルバム絵本カフェ

相模平野のランドマークである大山を眺める遊歩道の先にある「おうちごはん」と「もの作り」を楽しむカフェです。絵本や写真集、生活本を置いています。絵本やアルバムの制作も承っているので、お気軽にどうぞ。

- Web : <http://www.ehonkikaku.com>
- オーナー：アルバム絵本カフェ

NO. 892 (長野県 茅野市)

まちライブラリー@Farmer's Table

手打ちそばや高原野菜を使った料理を提供する蓼科高原のレストラン「Farmer's Table」の一角にあります。同じ施設内にある源泉掛け流しの「音無の湯」に入浴した後、読書も楽しめる場所になればと思っています。

- Web : <https://www.otonashinoyu.jp/>
- オーナー：松尾正俊

NO. 893 (大阪府 大阪市北区)

まちライブラリー@梅田茶屋町FUNZ

大阪の繁華街である梅田にあるオフィスビルで、ビジネス書や人生の指南書、哲学書、小説、漫画など様々な本を3000冊以上並べています。定期的な読書会や勉強会を開催していますので、お気軽にお立ち寄りください。

- Facebook : まちライブラリー@梅田茶屋町funz
- オーナー：鎌江春憲

NO. 894 (福島県 矢吹町)

まちライブラリー@しおりば

JR矢吹駅前オープンしました。勉強や仕事はもちろん、電車を待つ間などにちょっと特別な待合室のようにご利用ください。

- Facebook : Self space しおりば
- オーナー：飯塚智崇



NO. 895 (岐阜県 岐阜市)

まちライブラリー@専応寺

絵本を中心に仏教書や岐阜の歴史の本など様々な本を揃えています。本堂や庭、近くの長良川遊歩道などお好きな場所で読書をお楽しみください。絵本のワークショップを随時開催しているので、ご参加をお待ちしています。

- Facebook : 高賀山 専応寺
- オーナー：高賀まや子

NO. 896 (大阪府 富田林市)

さくらまちライブラリー

「好きなことで何かしたい」「好きな本や漫画の話をして、うきうきわくわくしたい」「読書友達を作りたい」と思い立ち、自宅の前で始めました。貸し出し日時はFBをご確認ください。

- Facebook : さくらまちライブラリー
- オーナー：櫻井絵梨佳

NO. 897 (愛知県 名古屋市中)

まちライブラリー@誰もいない店RIGHTS

オーガニック・フェアトレードの食品や手作り雑貨などを紹介するお店です。会計はセルフ形式で、本の貸し出しもノートに記入するだけでOKです。この店らしく、ゆる〜く本を手にとってもらえるとうれしいです。

- Instagram : @rights_official
- オーナー：小松裕子

NO. 898 (イギリス ロンドン)

日本語ライブラリー：ロンドン

家具や照明器具などを手がけてきたデザイン事務所です。イギリスについてもっと知りたい、日本文化を復習したいという方たちを対象に、主に「生活の美」にまつわる約1500冊の日本語本を貸し出します。

- Facebook : 日本語ライブラリー：ロンドン
- オーナー：安積朋子

NO. 899 (静岡県 牧之原市)

凧・百花春 まちライブラリー

広さ40畳のフロアに50冊分の表紙が見える絵本棚を設置し、絵本を季節ごとに入れ替えています。サロンや子ども食堂、相談スペースなど様々な利用の仕方があり、赤ちゃんからお年寄りまでの誰もが立ち寄れる居場所です。

- オーナー：中川松枝

NO. 900 (埼玉県 鶴ヶ島市)

つるがしまどこでもまちライブラリー @ヤキイモキヨコ

絵本や美術関係の本などを整理し、家の空き部屋で始めました。日当たりが良好ですので、お天気の良い日にぜひお越しください!

- Facebook : Kiyoko Oi
- オーナー：大井清子



イベントや各ライブラリーの情報は
まちライブラリーHPから

<https://machi-library.org/>



★コラム from アメリカ★

日本食材店の本棚 お客様の楽しみ支えて20年

今号より編集を担当する京谷です。この春からアメリカのカワシントンD.C.近郊で暮らしています。日々の生活で見つけた本やコミュニティにまつわることを、時折お伝えしていきますのでよろしくお願ひします。

さて、アメリカ生活での大きな悩みは食事です。特に6歳の息子が日本食を恋しがるので、家の近くにある日本の調味料やインスタント食品などを扱うお店「HINATA」のお世話になっています。そこで見つけたのが「無料貸し出し」と書かれた本棚です。オーナーの崎田さんによると、20年ほど前に帰国するお客さんから「誰かに読んでもらえたら」と譲り受けた数冊を本棚に置いて以来、寄贈が続き、今では小説や新書など600冊ほどが並んでいます。近くに日本語の本を買える店が無いこともあり、本を目当てに訪れるお客さんも。崎田さんは「本当は商品を置いたほうが売り上げは上がるけれど、お客さんの楽しみは無くせません」と話してく

れました。

先日お店に行った際、「サラバ! (上)」(西加奈子著)を借りました。裏表紙のあらすじに、海外で育つ男の子が登場するとあったからです。

この本を寄贈した人も、海外での子育てに不安を感じたのかしら?などと元の持ち主に思いを馳せることも楽しみの一つになりそうです。



自己と他者 呼応から生まれるまちライブラリー

まちライブラリーに関する情報はこちらから
<https://machi-library.org/>



京 都府京田辺市に新しいまちライブラリーが5月15日に誕生します。三山木駅（近鉄）の駅前にある元銀行の支店を利用した「南部まちづくりセンター」の中で整備され、京田辺市が運営する地域のコミュニティや文化活動の拠点となる予定です。それに先立つ4月9日、10日には、本棚を市民参加型でつくろうという会があり、まちライブラリーの活動について近くに住むシニアのご夫婦や親子など20名ほどに説明させていただきました。

また5月28日、29日には長野県茅野市の「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」でも、まちライブラリー区画を拡張するために、市民参加型で本棚づくりをする予定です。この場所はJR茅野駅に隣接しており、駅を利用する高校生や近所の親子連れからシニアまで様々な方が利用する本のある広場にしようという試みです。

思い返せば2011年にまちライブラリーを開始した際、大阪市中央区にある私が生まれ育ったビルでも同じように本棚づくりをして「ISまちライブラリー」が誕生しました。四苦八苦しながらも組み立てたことを思い出します。

このようにまちライブラリーは、いくつかの場所で参加型により本棚を作ったり、本を持ち寄るイベントを開いたりして誕生しています。現代社会では、効率のよい仕組みやサービスが与えられがちです。しかし、そのような過程で私たち現代人が、失ったものも多いのではないのでしょうか。一緒に何かをやる、手間をかけるという過程にこそ大事な何かがあったような気がしません。協働して何かをやるということには、窮屈さや不自由さ、ストレスもありますが、同じく手を動かすことで言葉にできないつながりや関係性が生まれているのかもしれない。協働で何かを達成するなかで他者とのつながりや、その場に対する思い入れが育まれるのでしょうか。

まちライブラリーの本に付ける「みんなの感想カード」も同様の意味があります。このカードが生まれたきっかけは、早稲田大学教授の友成真一さんの自分経営ゼミでした。ゼミでは、自分の夢を語り合い、お互いに応援する中で夢が形成されることを学生たちが実感できる流れになっています。具体的には、まず夢を語った学生に、他の学生が「YouME（ゆめ）シート」に応援メッセージを書いて手渡します。メッセージを受け取った学生は元気づけられ、夢にむかって歩みだせる気になります。「夢」は「You

（あなた）」と「ME（私）」のやり取りの中に生まれるもので、一人だけでは生まれにくいことを友成さんは伝えたいのです。自己の願望や行動だけで夢が形成されるのではなく、それに反応する他者があってこそ夢が生まれ、実現していくのでしょう。

この「YouMEシート」を応用したのが、「みんなの感想カード」です。ここにまちライブラリーの原点があると思います。誰かが、まちライブラリーを作りたいという思いに、周りの人が反応して本を寄贈したり、借りたりし、時には運営を手伝ったり、その場でイベントを開いたりします。このような過程を通してまちライブラリーが出来上がっていくのです。

北海道では、「集まらざる」という言い方があったと聞きました。「○○さる」は、能動的でも受動的でもない、もう少し中間のニュアンスが含まれた表現のようです。自分の意志でそうなのではなく、他の超越した力によってそうなっていくという感じでしょうか。これを聞いた時、國分功一郎さんの著書『中動態の世界 意志と責任の考古学』を思い出しました。中世ヨーロッパ言語では、受動態でも能動態でもない動態があり、それが中世の人の意識の中では自然

だったというのです。むしろ能動態は、自己意識の高まりにより近世になって生まれてきたものであるとしています。

まちライブラリーも自らの意志だけで作られるものでなく、そこに関係する人や周りの環境により「作らざる」ものなのかもしれません。自分一人で突き進んでもうまくいかず、誰かの助けだけを期待しても進みません。少しばかりの勇気を出した行動と、それを受けとめる身近な誰かとのやり取りの中で生まれてくるのがまちライブラリーです。片意地を張らず、自然体で人の力を借りながら、しなやかに進んでいく。

どうぞ皆さんのまちライブラリーもこのようなやり取りをしながら、自然と育っていく過程をお楽しみください。

2022年5月

まちライブラリー提唱者 磯井純充
連絡先 mail : MSJ00657@nifty.com